

島根県水産技術センター 漁況情報 平成 19 年 7 月 27 日発行

トビウオ通信 (H19 第 6 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《マアジ新規加入量調査結果速報》

島根県水産技術センターでは、日本海区水産研究所、西海区水産研究所および鳥取県水産試験場と共同でマアジ幼魚の新規加入量調査を実施しましたので、今回はその結果をお知らせします。

《結果の概要》

- マアジ幼魚の分布する水温帯(深度 50mで 16~18℃)は、沿岸から沖合にかけて広範囲に分布し、調査を実施した海域で満遍なくマアジ幼魚が採集された。
- 今年のマアジ幼魚の加入量指数(来遊量の多さ)は、前年の約 2 倍となり、2003 年の調査開始以来 2 番目に高い水準となった。

《マアジ幼魚の採集結果と分布状況》

2007 年 5 月 21 日から 6 月 13 日にかけて、図 1 に示した鳥取県西部から長崎県五島周辺の海域の計 87 地点において中層トロール網を用いて試験操業を実施しました。その結果、体長 3~5cmのものを主体に合計で 5,509 尾(1 曳網当りの平均採集尾数は 147 尾)のマアジが採集されました。

マアジ幼魚の分布状況(図 1)を見ると、今年マアジ幼魚の適水温と考えられる水温 16~18℃(深度 50m)の水温帯が隠岐諸島周辺から対馬海峡にかけて広い範囲に分布し、調査を実施した各海域においてほぼ満遍なくマアジ幼魚が採集されました。また、当水産技術センターが山陰沖で実施した季節別の中層トロール調査の結果(図 2)から、今年マアジ幼魚の来遊のピークは 6 月前半にあったと考えられました。

マアジ幼魚の採集数と水温分布から求めたマアジ幼魚の加入量指数(来遊量の多さ)は、来遊量の多かった2003年を1とすると、今年は0.48となり、昨年の約2倍、2003年の調査開始以来2番目に高い水準となりました(図3)。推定された加入量指数は、境港におけるまき網1ヶ統当りの当歳魚の漁獲尾数とある程度対応が見られることから、今後の山陰沖におけるマアジの漁獲量は、昨年を上回って推移する可能性が高いと考えられます。

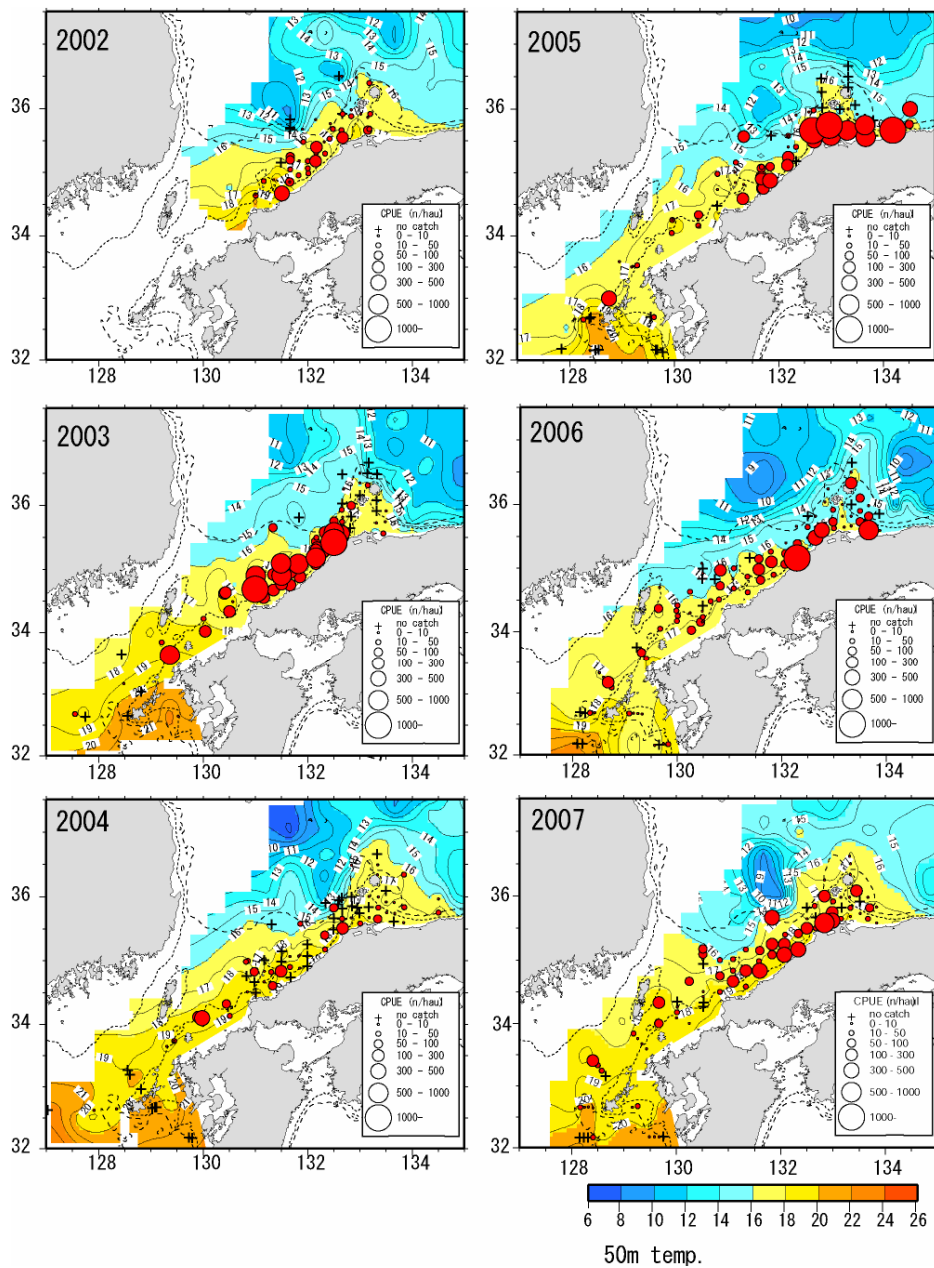


図1 中層トロール調査における2002～2007年のマアジ幼魚の採集結果

(資料:鳥取県水産試験場)

円の大きさはマアジの採集量の多さを表し、+は採集されなかった点を表す。カラー部分は水深50mの水温分布を表す。

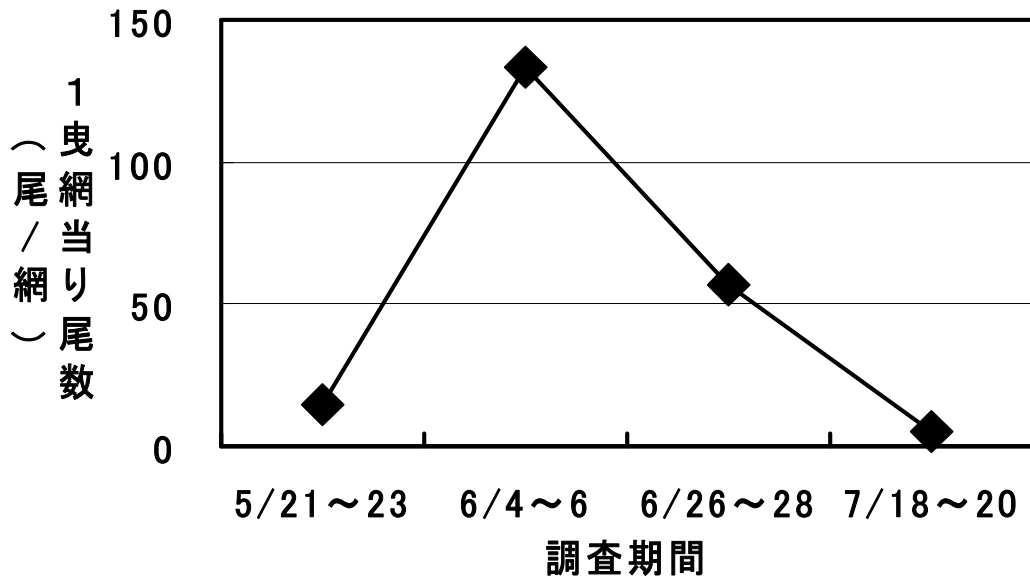


図2 2007年の山陰沖における中層トロール調査のマアジ幼魚の1曳網当り平均採集数の推移

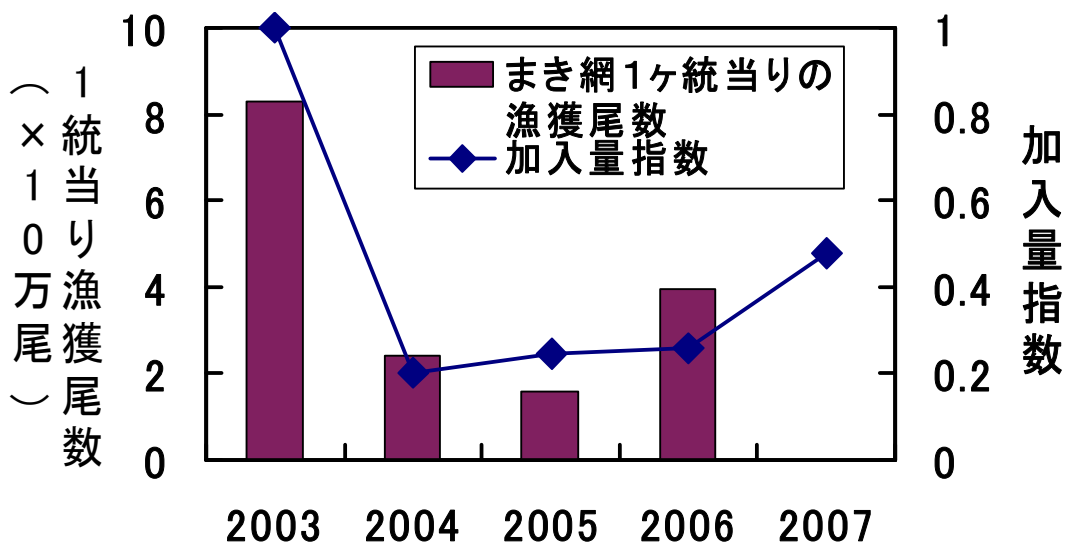


図3 マアジの加入量指数と境港におけるまき網1ヶ統あたりの当歳魚漁獲尾数の関係(資料:鳥取県水産試験場)